

計画策定にあたっての前提条件や協議事項など

1. 計画策定における前提条件

※環境省のマニュアルによる

	項 目	内 容
1	基準とする人口推計	「亀岡市人口ビジョン」を採用する
2	目標年度・温室効果ガス排出量の削減目標	・2030年(50%) ・2050年(カーボンニュートラル:温室効果ガス排出量の実質ゼロ)を目指す※ 【省エネ削減率(1%)を含む／森林吸収(6～7%)は含まない】
3	省エネ削減率	年間1%の削減率を見込む
4	基準年度	2013年(平成25)度の温室効果ガス排出量※
5	対象とする部門	運輸部門・家庭・産業部門・業務その他・廃棄物※

2. 今回、協議したい内容など

	項 目	内 容
1	計画期間	本計画の計画期間をいつまでとするか ①R13(2031)年まで(9年間) ②R12(2030)年まで(8年間) ③10年間
2	対象とする温室効果ガスの種別	CO2を中心に検討
3	再生可能エネルギー導入可能性の検討	本市における「地域の特徴」「地域の課題」について、認識しておいた方がよい点などご意見をいただききたい 亀岡市域で相対的にポテンシャルが高い「太陽光発電」を優先的に検討することでよいかが意見をいただききたい

計画策定にあたっての前提条件や協議事項など

3. 今後、協議したい内容など

	項 目	内 容
4	再生可能エネルギーの導入目標	再生可能エネルギーの導入ポテンシャルを考慮した、具体的な導入目標の設定
5	再生可能エネルギーの導入可能性の検討	・国の目標や先行自治体などの事例の調査 ・ため池発電、EV(電気自動車)、ソーラーシェアリングの導入可能性の検討
6	再生可能エネルギーの利用促進や脱炭素などに資する施策の検討	地域資源を活用した脱炭素に資する施策の検討 ・再生可能エネルギーの導入・利用促進 ・省エネ普及活動の促進 ・亀岡ふるさとエナジーの活用など
7	地域脱炭素化促進事業の対象となる区域の検討	改正温対法における地域脱炭素化促進事業の対象となる区域設定に向けて、可能性のある範囲や方向性を検討する
8	再生可能エネルギーのロードマップの検討	・2050年のカーボンニュートラルの達成に向けた脱炭素シナリオを作成し、再生可能エネルギーの導入目標の達成に向けたロードマップを作成する ・作成にあたっては、市民や事業者に向けて実施したアンケート結果等におけるニーズを考慮する